

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族懇親会や運営推進会議等で法人理念と事業所テーマ「チームワークを大切にし、相手を思いやる」の説明と実現へ向け、地域との関わりを大切にしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人の導入時にオリエンテーションを行い、年2～3回の研修でフォローしている。職員の質の向上に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族懇親会や運営推進会議等で、機会がある都度理解してもらえるように話をしている。	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日課の散歩や買い物など外出時の挨拶や日常会話に努めている。犬の飼育がきっかけとなり、声をかけてくださったり、尋ねてきてくださるよう努めている。また近隣の畑でとれた野菜を持ってきてくださる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	秋祭りや町内のイベントなどへ参加し交流を図っている。公民館の習字教室にも継続しての参加も心がけている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	キャラバンメイトの活動が出来ていない状況であり、今後地域の方への情報発信としかいを深めていけるように取り組んでいきたい。	○	通信などで情報発信を行い、地域の方々への認知症の理解を深めていきたい。誰でもが気軽に相談できるように介護相談の日を設け取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価する事で第三者評価の実施の意義を理解し、改善シートを活用し具体的に改善できるように取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の活動内容や報告を行い、会議での意見をミーティングなどで話し合い評価し、サービスの向上に努めている。		
9 ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡協議会に管理者、主任、リーダーが参加し、行政からの情報を得たり、他のグループホームとの交流で、サービスの質の向上につながる意見交換を行っている。	○	管理者以外の主任やリーダーなども研修に参加できるように配慮している。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修にて学び、必要な人には活用できるように支援している。	○	全職員についてこれらの制度が理解でき、また支援できるように年間研修に取り入れていく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人の研修や市町主催の研修で学び利用者との会話や身体状態に変化がないか、注意を払い防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	十分な話し合いの場を設け、不安や疑問点に納得いくまでの説明を行い、理解していただいている。		
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	日常の場面、場面で会話する時間を作り、意見、不満、苦情を聴く機会をつくり、それらを運営に反映できるように取り組んでいる。		
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の家族へのお便りと一緒に報告している。利用者からのお便り、写真、職員からの近況報告を行っている。健康状態については、変化の都度報告し、理解していただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人ホームページや意見箱の設置で窓口を設けるなど、気軽に家族の意見が聴ける環境作りに努めている。	○	家族懇親会での意見交換で気軽に意見が出せる環境作りをしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ほおずきの目標管理の制度であるマイチャレンジにより、職員の役割りと、管理者からの期待すること及び要求することを明確にし、職員の目標を定めており、定期的に面談を行い、意見反映の機会づくりに努めている。また、毎月各ユニットのケース会議や全体のパートナー会議の場でも、事故・ヒヤリハット・職員のマナー、日常のケアなどについて意見を出し合い業務改善に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応ができるように話し合いの場を設け、勤務調整に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者様との関わりを厚くする為に、正職員採用をきほんとし、移動は最小限に止めている。移動等が必要な場合は、最低以一ヶ月の引継ぎ期間を設け、利用者様との馴染みの関係を引き継ぎ、環境変化を最小限に止めるように努めている。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で階層別に、研修計画を立案し定期的に研修を行い、ホーム内ではOJTを中心とした研修も実施している。全職員を対象に外部講師による講演会を定期的開催することや、外部研修、勉強会の案内も行っている。また、資格取得のために必要な情報提供やそのための勤務調整を行い、ケアマネの対策講座や介護福祉士の実技指導などを行っている。合わせて、マイチャレンジで目標を明	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会や協会に所属し交流活動を行っており、定期的な勉強会を通じ、他法人のグループホームや特養などの管理者・職員との交流を行っている。職員への協会主催の勉強会の案内をしている。隣接して運営している事業所へケアマネージャーの皆さんが訪問くださる機会も多く、地域の情報を得る機会も多い。また、同業他社との相互見学を行うなど、悩みの解消などや自己啓発に役立っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	計画的に問題点を共有する機会を設けており、管理者及び職員とマイチャレンジを実施し、いつでも発言しやすい雰囲気を作るよう心がけ、コミュニケーションを深める機会としている。また、外部講師により、実務中心の勉強会を行い、悩みや行き詰まりの解消をサポートしている。また、希望休や希望の有給休暇を取得できるよう支援することや親睦会を行い、管理者及び職員と親睦を深め、リフレッ	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の目標管理を行い、マイチャレンジと面接制度を併用することで、管理者から問題提議と、管理者及び職員から希望を汲み取り、職員とコミュニケーションを図ることを大事に考えている。法人本部からの情報発信により、ご家族様からの温かい言葉(手紙)で喜びを共有することや、色々な事例に応じた勉強や検討ができる仕組みを構築している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくりと時間をかけ、話を聴く。また落ち着いて話ができる環境作りを行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	落ち着いて話ができる環境作りに努めている。また待機中にも、定期的に話を聴く機会を作っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を見極め、必要な支援が出来るように対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に十分な話し合いができる環境をつくり、併設のデイサービスを利用しながら、職員や他の利用者との馴染みの関係が持てるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、利用者の「できること」を見つけ、ケアに活かしている。家庭菜園では、旬の野菜の種まきから収穫までを一緒にする事で学び、喜び支えあう関係作りが築けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	季節行事への参加の機会を持ったり、精神的に不安定な状態にあるときは、定期的に面会をしていただいたりしている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や毎月のお便りで状態の変化の報告を行い、より良い関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の書道教室への送迎、親しい人との手紙のやり取りの支援、友人との面会、外出の支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格や行動を把握し、小グループでの支援、外出時には全員で関わりを持てるように支援している。、		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も面会に行ったり、年賀状でお互いの近況報告を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々のニーズに応えられるように支援している。新たな気づきにたいしては、情報交換ノートを活用し把握に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや家族への聞き取りにて、把握するように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活歴、アセスメント、行動パターンなどから把握をするように努めている。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスや家族の思いを聴き、介護計画に反映させている。ケース会議に家族の参加を促し、情報交換ノートを活用し、介護計画に反映させている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	センター方式を導入し、多くの情報を収集し介護計画の作成をしている。状態の変化が生じた場合、家族と日程調整をし話し合いの場を設けるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス経過に記録し、新たな気づきや実践、評価しながら介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスを利用してカラオケ大会や大浴場での入浴、夏祭り、敬老会行事などで交流の機会を持ち柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの受け入れや教育機関への交流を図れるよう情報発信をしていく。		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、家族のなどの意向や必要性に応じて、他のサービスを利用するための支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの情報交換や交流を図っていく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間誰でも気軽に受診相談ができる。以前からのかかりつけ医の受診支援も行っており、家族への協力や受診送迎の支援なども行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の紹介により、専門的に診断や治療を受けられるように支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用 の支援をしている	かかりつけ医の看護師に、健康管理など気軽に相談でき支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会の機会を多くとり、状態の把握をし早期に退院が出来るように、病院関係者との情報交換に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた取り組み指針を作成し、職員で方針を共有しているが、医師との連携など課題が多くあり、条件整備に力を入れている。重度化対応への負担やリスクの回避が可能な状況になれば、さらに検討を進めていく予定である。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との連携を密にとり、利用者が心安らかに過ごせるように、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを防ぐため、関係者と十分な話し合いの場を設け、情報交換をおこなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人間の尊厳に対する意識は高く、個人情報の取り扱いについても、鍵のかかるところで管理しており、これに関する事業所の指針も見やすく掲示している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者とともに過ごす時間をつくり、思いや希望が出せるように選択性をとっている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日の希望によって柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者が選択できるように、選択肢の数を増やし利用者の思いが叶えられるように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立作りには、職員全員が参加している。カロリー計算しながら、旬の食材を取り入れた食事を提供している。調理の下ごしらえや片付けなど利用者にも参加してもらっている。		
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好に合わせた、飲み物やおやつを一人ひとりの状況に合わせて支援している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけをしスムーズな排泄の支援に努めている。	○	一人ひとりの排泄パターンを把握する事で、紙パンツやパットはずしに取り組んでいる。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日々の状況や体調に合わせ対応し、週に2～3回の入浴が確保され、併設のデイサービスの浴室を利用して、利用者同士の交流を図っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	場所を特定することなく気軽に、休息できる雰囲気づくりをしている。	○	事業者内どこでも安全面に配慮しながら、椅子やソファを置いていつでもくつろげるように取り組んでいる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や買い物、習字、絵画など個人の要望に対応した支援をしている。アセスメントから楽しみごとや気晴らしの支援につなげるよう、努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し少額のお金を所持してもらっている。買い物での支払いが出来るように支援している。	○	嗜好品の支払いは出来るだけしてもらっている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにスーパーがあり、散歩をかねた外出を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域行事や催し物など利用者の要望を聞き出かけられるように機会作りを支援している。	○	作品の展示会、喫茶店、動物ふれあいフェステバルなどに、出かけられた。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りに利用者にも書いてもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の決まりがなく、家族、知人友達などが、いつでも気軽に訪問できるように、玄関に花を活け雰囲気づくり工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で学ぶ機会も多く、身体拘束禁止を全職員が理解しており、利用者の状態を把握する事で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを全職員が把握し、予定外の外出にも職員が距離をおいた見守りにより対応している。夜間は防犯と危険防止のため施錠しているが職員が1階で待機しているので、安全面は確保している。		
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時間を決めて所在の確認を行っている。夜間は1時間毎の巡回を行い、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は預かり保管をしているが、希望や要望こたえ見守りし支援している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活かし、全職員状態の把握に努め、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備えての研修や講習会に参加している。新人研修の必須項目にもなっている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練に取り組んでおり、地域の自治会支援も期待でき、全職員が夜間や昼間の想定で避難訓練に参加できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族にもケース会議に参加していただき、状態の変化に伴い、おこり得るリスクにも十分な話し合いが出来るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで体調の変化を早期発見に努めている。情報を共有しながら対応をしていく。	○	情報交換ノートを活用新たな気づきが多くなるよう取り組んでいる。
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報で処方された薬を確認し、一覧表にして誰にでも分かるようにしている。変更があれば申し送りノートに記入し、全ての職員が周知徹底できるようにする。	○	誤薬や飲ませ忘れないように服薬チェック表で二重管理している。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の食事の献立に、乳製品や食物繊維を多く含む食品を取り入れるようにしている。水分や適度な運動を促し、薬に頼らないように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔状態に応じた支援を行っている。夜間は義歯洗浄が出来るように支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作り、食事や水分量をチェック表にて一人ひとりの摂取状況を把握している。かかりつけ医とも連携し、糖尿病の利用者には、カロリー計算を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを作成し、手洗い、うがいの励行手摺りやトイレの消毒はピューラックスで行っている。	○	定期的に空気の入れ替えを行っている。加湿器で空気の乾燥を防ぎ、夜間は濡れタオルを居室内に干したり、洗面台に水をはって予防に取り組んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日新鮮な食材を配達してもらっている。調理器具は定期的に消毒を行っている。	○	調理済みのものは長時間放置しないで冷蔵庫保管する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季折々の花を植えたり、飾ったり掲示板での情報発信を行い、地域の方々に親しみをもってもらえるように取り組んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内で家庭菜園やガーデニングを行っており、くつろげる空間づくりをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やリビング、掘りごたつと利用者が思い思いの場面でいつでも過ごせるように取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は危険なものや火を使うものがなければ、自身の住まいとして自由にレイアウトしてもら。以前から使用していた家具や小物を持ち込み利用者本位に暮らせるように環境づくりに努めてる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、加湿器空気洗浄機を使用し、気温の変化に合わせてこまめに温度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、必要に応じて手摺りが設置してある。居室内には、一人ひとりの機能に合わせた工夫がしてある。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活からできることを増やし、自立してらせるように取り組んでいる。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	家庭菜園や季節の花を植え育てている。		

(部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2/3くらいが ☐ ③職員の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☐ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ① 利用者と協働する家庭菜園。今年は全ての野菜を種から育てて収穫している。
- ② 犬を飼育するようになって利用者の表情がやさしくなった。犬を通して近所の人が声を掛けてくれたり、子供が遊びに来たりするようになった。